

## 令和2年度 学力向上プラン

学校名

中央区立月島第二小学校

学校の教育目標

心の豊かな子ども・よく考える子ども・たくましい子ども

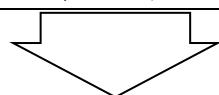
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・基礎学力を確実に身に付けさせるとともに、一人一人の習熟度に応じて学力を伸ばす指導を行う。
- ・児童自ら課題を発見し、主体的に問題を解決する力を身に付けさせる。

令和元年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	国語の読む能力については、5年生の学習力サポートテストでは、全国平均を8.3ポイント、6年生東京都学力向上を図るための調査では、東京都の平均を2.9ポイント上回っている。読むことについては概ね、学年としての力が身に付いていると考えられる。 書く能力については、学習力サポートテストが区の平均より5年生では、1.5ポイント上回っており、6年生では、区の平均より2.3ポイント下回っている。今後、書く活動を多く取り入れる授業展開の工夫と、主体的に学ぶ環境を作っていくことが求められている。	普段から、自分の考えを文章に表す活動の回数が少ないことが要因と考えられる。また、作文など、書く活動の経験が少ないことが要因と思われる。
算数	6年生では昨年度行った東京都学力向上を図るための調査では、ほぼすべての観点で、東京都の平均を上回っている。しかし、学習力サポートテストでは、数学的な考え方が中央区の平均を2.8ポイント下回っている。	思考力・表現力を向上させるための指導の機会が不足した。解答までの自分の考え方を、ノートに記述し、発表することで考えの違いを理解するという指導を継続して行っていく。
社会	5年生では、「社会的な思考・判断・表現」の領域について区の平均より6.9ポイント下回っている。6年生でも「社会的事象についての知識・理解」が区の平均よりも0.8ポイント下回っている。	文章を読み解き、グラフから学び取る力が不足している。
理科	5年生が昨年度行った学習力サポートテストでは、自然事象についての知識・理解について5.3ポイント、「科学的な思考・表現」の領域については、3.9ポイントほど中央区の平均よりも下回っている。	自然事象について、観察や実験を行う環境が少ないことがあげられる。自然事象に興味をもてるような授業展開の工夫が必要である。
体育	本校の特色であるなわとび活動を取り入れていることで主体的に運動している。体力調査の結果、ソフトボール投げと握力が大きく平均を下回っている。	体育の準備運動に柔軟性の力が伸びる要素が足りないことと、ボールを投げる運動の機会が少ないことが要因と思われる。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	学習内容を深く理解し、発達段階に応じた学習の資質・能力を身に付け、児童自らが主体的に学ぼうとする姿勢を全児童に身に付けさせる。
②授業改善	全教員が、言葉の学習や作文について、言語の知識・理解・技能の習得のために、個別指導の充実を図る。学習力サポートテストの国語において、区の平均に達するように1.9ポイントアップを目指す。
③教員の指導力	どの授業においても、全教員がユニバーサルデザインを意識して、児童の90%が「楽しい」と思う授業づくりを目指す。
④家庭との連携	家庭学習の定着率を学年において、80%を目標とする。また、保護者の児童への働きかけを具体的に示し、生きる力を育む。
⑤体力向上	全児童に対して体力向上に向けた取り組みの充実を図る。児童の体力づくりにおける肯定的な自己評価をしている児童の割合を6%あげ、90%を目指す。



### 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	児童の実態に合った各教科の年間指導計画を作成し、計画的な指導をくり返し行い、学習の基礎・基本の確実な定着を図る。
取組Ⅱ	指導時間内に、どの児童も「分かった」「できた」ということを、実感できるような授業展開の工夫を行う。特に社会や理科の学習において自己を振り返る時間の設定する。
取組Ⅲ	各教科では、ユニバーサルデザインの視点に立ったどの児童にも分かりやすい授業展開を目指す。そのために、児童の反応を予測した教師の発問を吟味し、綿密な板書計画を立てる。

②授業改善	
取組Ⅰ	算数では、単元ごとにレディネステストを行い、コースガイダンスに基づいたクラス分けをすることで、児童の習熟度に合わせた指導を行う。
取組Ⅱ	パワーアップ学習や放課後「さんすう塾」などを活用し、学習の定着に不安のある児童には、東京ベーシック・ドリル等を活用し、個別の指導を行う。

取組Ⅲ	自然事象について観察や実験を行う環境が少ないので、校外学習やインターネットを使用して、児童の興味や関心を喚起させる。
-----	--

### ③教員の指導力

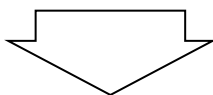
取組Ⅰ	校内研究授業で、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりについて研究を深め、教員自らが楽しいと感じるような研究授業を目指す。
取組Ⅱ	若手教員の授業力向上のため、OJT研修を月に1回実施する。主任教諭が授業を行い、その授業について研究協議を行う。司会進行や協議運営は、若手教員が進められるようにする。
取組Ⅲ	教員相互の授業力向上のため、研究授業の事前授業を公開とし、学校全体で、教員の授業力向上に尽力する。

### ④家庭との連携

取組Ⅰ	家庭での学習を推進する「家庭学習キャンペーン」の内容について、子どもと一緒にパソコンを使って調べたり、新聞に書かれたことを話したりする、など具体的な例示をする。
取組Ⅱ	個人面談・保護者会等で、児童の学習状況や努力の様子を伝えたり、個人の課題を伝えたりすることで、保護者と共通理解を図り、連携を強化していく。
取組Ⅲ	学校だより、学年だより、学級通信等で学校での取組や学習内容等、家庭に対して、分かりやすい言葉を使って発信していく。

### ⑤体力向上

取組Ⅰ	体力調査の結果を分析し、児童の体力や運動能力を客観的に把握することで、課題となる運動能力の向上に向けた取り組みを推進するとともに、体育の授業やスポーツ活動に関する指導の充実を図る。
取組Ⅱ	体を動かす遊びやマイスクールスポーツに加え、基礎的体力・バランス力の向上を目指すコーディネーショントレーニングの要素を入れたなわとびの準備運動を授業に取り入れる。



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤	ユニバーサルデザインの視点に立ち、児童の反応を予測した教師の発問を吟味したことで、児童が主体的に学習する姿勢が見られた。学校評価の児童アンケートでは、96%の児童が「授業の内容がわかる」と答えている。	児童の実態に合った各教科の年間指導計画を作成し、計画的な指導をくり返し行う計画だったが、新型コロナウイルス感染症対策の関係で十分に行うことができなかった。
②授業改善	タブレット端末が充実したことによって、自然事象について観察や実験を行う環境が少ないところをカバーすることができた。インターネットを使用して調べ学習することで、児童の興味や関心を喚起させることができた。	タブレット端末が導入されたことで、その技術を使いこなすことができるようにしなければならない。来年度から導入されるドリルパークについて、教員が効果的に使用できる環境を整備することが必要である。
③教員の指導力	若手教員の授業力向上のために、OJT研修を月に1回実施する計画だった。校内の中堅教員が講師となって参加したことにより、全体の教員の指導力が向上した。来年度も続けていきたい。	今年度行ったOJT研修会により、ある一定の成果を上げることができた。より深まりを求めるために、それぞれの専門分野について研修できるような環境を整えていくことが必要である。
④家庭との連携	学校だより、学年だより、学級通信等で学校での取組や学習内容等、家庭に対して、分かりやすい言葉を使って発信していくことで、保護者からの理解を得られたと考えている。	学校行事や保護者会等で、児童の学習状況や努力の様子を伝えることができなかった。ホームページで学年行事などを知らせることができなかったため、情報伝達を整備することが急務である。
⑤体力向上	マイスクールスポーツに加え、基礎的体力・バランス力の向上を目指すコーディネーショントレーニングの要素を入れたなわとびの運動を授業に取り入れたことで、なわとびの技量を高めることができた。	児童アンケートの中の「自分の体力づくりに取り組んでいますか」という項目で、取り組んでいると答えた児童が、80%にとどまった。昨年よりも約5ポイント下がっているため、なわとび・長縄を推奨し、体力の向上を図る。